



関市板取の「杉」



■会 長 加藤照彦 ■副会長 西田泰幸 ■幹 事 伊佐治啓司



関市民 1000人が参加して創りあげた
シャインカーブツアード「関二鳥」

D2630 ROTARY CLUB OF SEKI WEEKLY REPORT



SERVE TO CHANGE LIVES

2021 ~ 2022 年度国際ロータリーテーマ
『奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために』 SERVE TO CHANGE LIVES
RI 会長：シェカール・メータ

関ロータリークラブ会長テーマ
『和衷協同』 56 代会長：加藤照彦



本日のプログラム

第 2622 回例会 2022 年 3 月 1 日 (火)

「地域の憩いの場として

人と人をつなぐお寺をめざして」

関善光寺 (宗休寺) 住職 佐藤舜海様

※オンライン例会

前例会の記録

第 2621 回例会 2 月 15 日 (火) 12:30

「コロナ禍における青年部の活動」

関商工会議所青年部 会長 小林慶三様

※オンライン例会

◆ビジター紹介

関商工会議所青年部 会長 小林慶三様

〃

専務理事 石原敬雄様

◆開会点鐘

◆会長挨拶



今日は、関商工会議所青年部 小林慶三会長と石原敬雄専務理事に例会場にお越し頂いております。お忙しい中、またコロナ感染が拡大している中、大変ご無理をお願いしました。ありがとうございます。後程卓話を頂きますので、宜しくお願い致します。3月12日の55

周年記念式典まで残り1ヶ月を切りました。コロナ感染の状況でどの様になるのかわかりませんが、現状では予定通りの開催に向け、いくつかの部署に分かれて準備を進めて頂いております。残り1ヶ月弱で最後の追い込みとなりますが、宜しくお願い致します。

さて、先日いくつかの日本

企業のホームページで企業理念を閲覧してみると、「信頼・信用」、「安心・安全」、「誠実」などが非

常に多く見受けられました。しかしながら、そのような理念はもともと大前提であり、お客様や生活者がそれを読んで深い共感は得られないでしょう。例えば、銀行が「信用」を前面に打ち出しています。しかし、そもそも信用できない銀行に大事なお金を預けるわけがありません。銀行においては、「信用」は大前提なのです。食品メーカーにおける「安心・安全」や、病院の「誠実」なども同様でしょう。生活者から見て、そうであって当たり前のことを理念として掲げられても、何ら感銘は受けませんし、当然記憶にも残らないでしょう。しかし、銀行の経営者としては「最も大切なのは信用なのだから、理念において信用を謳うのは当然」と発想してしまいます。ですが、本当に大切なのは「信用」や「安心・安全」、「誠実」という言葉を理念として掲げる事に至った背景や想いと、それを語るブランドストーリーだと心得る必要があります。経営者として様々なことを学び経験したからこそ、味わえる言葉の重みというものがあります。例えば、子供の頃に観た映画を大人になってから観ると、当時は気付くことの出来なかった新たな面白さや感慨深さを味わえることがあります。これは、子供から大人へと成長する間にいくつものことを学び、新しい価値観や基準を身に着けたからこそ、違う視点でその映画を観ることが出来るからです。同様に、経営者と同程度の経験値や価値観を持たない人が、経営者が共感している言葉の奥深さを感じ取ることは不可能でしょう。企業の魅力を伝えるブランドコンセプトは、自社の独自性をしっかり表現しながら、ターゲットとなる相手に伝わり共感を覚えるようなフレーズを考えていくことが重要だと思います。

◆委員会報告

◎ニコボックス委員会

会長・副会長・幹事の皆さん・・・本日のお客様、関商工会議所青年部 会長 小林慶三様、専務理事 石原敬雄様、ようこそ関ロータリークラブにお越しくださいました。「コロナ禍における青年部の活動」についての講演、よろしくお願いたしします。

◆「コロナ禍における青年部の活動」

関商工会議所青年部 会長 小林慶三様



日頃は、関商工会議所の活動にご理解ご協力をいただき、誠に有難う御座います。

さて、今年に入り、新型コロナウイルスの変異株・オミクロン株がこれまでにないスピードで猛威を奮っております。県

下の非常事態宣言及びまん延防止等重点措置も延長となり、日常生活・経済活動・医療体制など、引き続き難しい状況が続いておりますが、今年度の青年部も同様に、非常に厳しい中での活動となりました。一昨年の12月からスタートした令和3年度体制は、言うなれば忍耐と挑戦の一年でありました。コロナ禍以前の私たちは、対面で自由闊達、喧々諤々、時には胸ぐらをつかみ合う程の勢いで議論し、一方で会議が終われば、膝と膝をつき合わせ酒を酌み交わしながら、青年部のこと、会社のこと、将来のビジョンや地域の発展などについて語り、絆を深め交流してまいりました。しかし、このような些細なことが大変難しい一年でした。それでも、令和2年度・現西村直前会長の元、創意と工夫・勇気と情熱を持ってコロナ元年を乗り越え、繋いでいただいたタスキをしっかりと受け取り、Connect!～自企業、仲間、そして未来へ～をスローガンに、その時できる最大限の挑戦を行ってまいりました。先ず、諸会議については、1月から6月までの半年間、すべての会議をZOOMで行うオンラインに切り替え、殆どの会員がリモート会議に対応できるようになりました。4月と11月の総会は、現地開催とZOOMを併用したハイブリッドで行いました。当初は決議をハイブリッドで行うことに戸惑いもありましたが、新しい時代の流れと受け止め、前向きに準備しました。5月の例会では、経営委員会が担当して学びの事業を行いました。特にコロナの影響を受けた会員の一助となる様に企画を考え、経営支援の専門家を講師に招聘し、事業再構築補助金などについて学びました。6月の親睦事業では、対面での会食ができない中で初のZOOM懇親会を開催しました。オンライン懇親会が成立するのか不安でしたが、ブレイクアウトルームやビンゴ大会などのレクリエーションを駆使し、また、お酒の力を借りることで、予想以上に親睦を深めることができました。7月と11月には、各務原の青年部会員と共催で合同事業を行いました。今後益々活用が進むドローンを使っのレースやスポーツ、ビジネスマッチングなどを通じ、多くの会員同士が繋がることができました。8月の地域振興事業では、今年オープンした「せきてらす」で一早く体験型イベントを行い、自企業の強みを深堀し形にして、メンバーや家族、地域の方へPRしました。さらに、本事業は関市役所さんと関青年会議所さんにご協力をいただき、官民合同チームを結成し「民間主導による体験

型イベントの開催」について様々な観点で検証し、今後の地域振興事業に活かすべく議論しました。9月の新入会員交流事業では、オンラインで新入会員と交流会を実施し、新入会員自身がパワーポイントを駆使してプレゼンを行い、既会員へアピールしました。今回で7回目を迎える10月商工業事業の関メタルアート展では、急速な感染拡大状況を鑑み急遽、展示とコンテストを完全オンラインに移行して中止を回避し、SNSツールであるインスタグラムを活用することで、全国から作品が集まるアート展へとさらに成長させることができました。12月には岐阜県商工会議所青年部連合会・合同事業として、関、高山、各務原、恵那、美濃加茂、可児の青年部による合同オンライン展示会を実施し、単会の枠を超えたビジネスチャンスの創出ができました。この様に、これらの設えはすべてコロナによってもたらされた急激な変化に伴うものです。初めての試みや変更の変更などで挫けそうなこともありましたが、しかし、これらは新時代を生き抜くための新たな挑戦と受け止め、自企業の発展・仲間・未来へとコネクトするため、皆で知恵を絞り作り上げた、その時できる最良の事業になったと確信しております。コロナ禍により、今コミュニケーションが難しい状況にあると感じている方も多いのではないのでしょうか。青年部もしかりです。だからこそ、改めて会員同士が意識して刺激し合い、研鑽し交流する。自己を成長させ自企業の繁栄へと繋ぎ、そして地域の経済的発展の支えとなる。そんな団体としてこれからも邁進していく所存です。結びになります。まだまだコロナとの戦いは続きますが、感染対策の研究も進み、少しずつ経済活動も動き始めました。状況に合わせて、リモートなどしかるべき準備を行い、最大限の対策を実施しながら、残りの事業も実りある活動にしていきたいと思っております。そして、関商工会議所青年部は、令和4年度も堀部資宏次年度会長と共に泥にまみれて一丸となり頑張って参りますので引き続きご理解ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



◆幹事報告

◎例会終了後「理事、役員会」開催

次例会のご案内 3月11日(金)15:00

「55周年記念式典のリハーサル」

場所：せきてらす 3/8(火)の例会変更